

病院名変更など 市に反対要望書

市立脳血管医療
センターの患者ら

横浜市立脳血管医療センター(磯子区)の患者や市民でつくる「脳卒中から助かる会」(上野正代表)が二十八日、市が検討している病院名変更などに反対する要望書を市に提出した。

市は二〇一二年度に同センターに導入した「脊椎脊髄外科」を拡充して同分野の横浜地域の中心施設とし、医療機能拡大に合わせた病院名に変更する方針。三、八月に市民・利用者のアンケートなどを

し新名称を使うスケジュールを立てている。

要望書は「市民に最新の脳卒中医療を提供する本来の機能、設置目的を変更するもので、受け入れられない」と指摘。病院名を変更せず、新たに導入した脊椎脊髄外科部門をセンターの補助的部門と位置付けることなどを求めている。

(橋本誠)

市立脳血管医療センター 病院名の変更

患者団体反対

経営改善の一環として、脊椎脊髄外科を新設するなど医療機能の拡大を進めている横浜市立脳血管医療センターが病院名を変更する方針を示していることについて、県内を中心とする患者や家族でつくる「脳卒中から助かる会」(上野正代表)は二十八日、名称を変更しないよう求める林文子市長宛ての要望書を提出した。

要望書では、同センターの本来の機能である最新の脳卒中医療を市民に提供するため、医療体制の回復と医療機能の充実のため総力を

を挙げることなどを求めている。代表の上野さんは「脳卒中医療がますます重要となってくる時に、責任を表す名称を放棄することは許されない」と指摘している。

同センターは一九九九年に開院。脳神経外科や神経内科などがあり、病床数は三〇〇。脳血管疾患を専門として脳卒中の急性期から回復期までの治療とリハビリを行っている。

患者数が限られるため、低迷していた病床利用率を上げようと、市は二〇一二年度四月から脊椎脊髄外科などを新設した。

病院名の変更について市は、市立病院経営評価委員会に外部有識者を交えた専門部会を設け、近く初会合を開く。今後、市民や利用者アンケートを行い、条例改正を経た上で来年一月からの新名称使用を予定している。

(桐生 勇)

脳血管疾患患者の会 「病院名変更」に反対

脳血管疾患の患者やその家族らでつくる「脳卒中から助かる会」(横浜市中区)は二十八日、横浜市が検討している市立脳血管医療センターの病院名変更反対する要望書を市に提出した。

市は同センターで脊椎脊髄疾患や神経疾患に対する医療を充実させる計画を立てており、あわせて病院名の変更を検討している。助かる会は反対理由について「脳卒中医療が重要になっているこの時期の名称変更は、病院の責任の放棄につながる」としている。